

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200238		
法人名	医療法人社団 明佑会		
事業所名	グループホーム ひかり		
所在地	熊本県八代市渡町1717番地		
自己評価作成日	平成28年2月13日	評価結果市町村受理日	平成28年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本県熊本市中央区南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成28年2月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方の周辺症状も把握し、落ち着いた雰囲気の中でゆっくりとした生活が出来ていると思います。安全で利便性がよく環境面も快適です。医療体制も体調、病状に変化があった場合は併設のクリニックへ報告を行い、主治医の指示の元対応を行っています。週一回のケアミーティングで状況報告を行い、アドバイスを頂きケアに活かしています。また年間行事計画も作成しイベントに合わせた外出、畑を利用した芋、大根ほり、収穫した作物を食材に利用し季節感を味わっています。秋の納涼祭には地区の方々の多くの参加もありました。全国花火大会のときにはグラウンドや駐車場を駐車スペースとして開放いたしました。今後も地域の医療、福祉に貢献していきたいと思ひます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域のまつりや三社参り、全国的にも有名な河川敷での花火大会の見学をはじめ、晚白袖風呂等地域や地元の良い生かしながら、今年度も入居者の求めていることに「ゆっくり ゆとりを持って」応えていきたいという意欲が伝わってきた。自己評価においても、「出来ていること、いないこと」、「これから取り組みたい内容」について率直な表現で真摯に向き合っている。開設当初から、ホームの日常生活を撮った写真はパソコン内におさめ、家族会や運営推進会議の席をはじめ、介護計画についても面談室でその映像を流しながら説明を行うなど、日常生活や一人ひとりを知ってもらうことで信頼関係や協力体制に繋げており、参加者も楽しみにされている。また、法人開設者への信頼も厚く、医療機関との連携は重度化や高齢の入居者・家族、職員にとって安心するところとなっている。この一年は、職員の異動や離職もなく、馴染みの職員による支援が展開されている。今後も地域の良さと職員のケア力を生かし、入居者の穏やかな時間を支えて頂きたい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につく所に貼り、週一回朝礼時に唱和し意識付けを行っている。入居者様に尊厳を持って接し少しの変化でも毎日のミーティングで意見を出し合い共有ケアに繋げている。	今年度、理念に立ち返る重要性と、理念を現実化できるようにと、新たに倫理規定を設け、ケアに集中するべく、掲示や唱和により意識付けとしている。また、理念の3項目を具現化して示し、新規入職時には職員に迷いが生じないよう理念に則り、教育を徹底している。ホームとして出来ることで地域づくりを展開していきたいとの開設に向けた思いを全職員が引き継いでおり、地域密着型事業所としての意義を明確にしたホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の資源回収、奉仕作業、花火大会後のゴミ拾い、隣接する清流高校の学生の皆さんと一緒に活動を行った。運営推進会議でも町内会長、民生委員より行事の情報を頂き参加し、昨年も納涼祭に多くの参加があった。	地域の一員として積極的に関わり(資源回収・花火大会後の清掃活動等)、民生委員や町内会長からの情報を得ながら、小学校で開催される夏祭り等に出かけている。また、ホームの行事である納涼祭は隣接する高校や多くの住民の参加により、盛会に開催されている。花火大会の駐車場としての開放や、保育園児の訪問によるふれあいタイム、畑づくりに地域住民と共に取り組み、消防団や地域活動の広報活動として訪問される等社会資源の一つとして大切にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問、見学の連絡には快く受け入れ、来所して下さるようにしている。突然の訪問にも話を聞き相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、現状報告、事例発表を行いいろんなアドバイス、意見を頂きケアに活かしています。又、理事長より医学的な立場から参加者の皆様の質問に答えられたりアドバイスをを行っている。	定期的開催する運営推進会議は、理事長による医学的な根拠をもとにした認知症ケアの発信や、町内会長の情報を生かし、参加者と入居者として絵手紙作りを体験している。看取りについて、家族及び職員の思いを把握し、この会議の中で報告されている。	運営推進会議の中に、納涼祭を組み入れる等工夫されている。今後も、この会議の意義を再度説明いただき、ホームが課題とする議案をテーマとして話し合い、サービスに反映されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修会の情報、市からの連絡等メールで頂き、疑問な点は運営推進会議を通して質問を行い、理解するようにしている。長寿支援課課長も時々参加され、アドバイスを頂いている。	行政との情報交換のツールとしてメールを活用している。行政主催の研修会への参加(メンタルケア等)は、質の向上に生かされている。また、運営推進会議の中での事例発表等情報を発信し、市の介護保険負担割合を把握している。土曜日に開催する運営推進会議に、行政や地域包括支援センターから毎回の参加があることに敬意を表したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的身体拘束は行っていないが、職員が少ない時など利用者様の訴えに対して迅速に対応できない時があり自由な行動を制限している時もある。「どこにいきますか。」等の動きを規制する声かけにも言い方を替え対応していきたい。	管理者及び職員は、「徘徊・離苑時等における警察との連携」という外部研修やホーム内研修により、身体拘束及び言葉での抑制等正しい知識を身につけている。入居者の「帰りたい」との要望等引き止めることも無く、抑制の無い言葉使いに心を配ると共に、所在確認を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修参加の他にも、社内の勉強会等も行っている。抵抗がある時のケアについては穏やかになれるタイミングを見てケアしたり、無理には行わないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し事例を検討している。本年度は八代事業所に講師を招き講演をして頂いた。事例はある程度理解できたと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明を行っている。ご家族様の訪問時には面談を行い不安、疑問点があれば説明を行っている。改定時にも説明を行い署名を頂き質問には分りやすいよう話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂いたご家族様に発言の場を設け、参加されないご家族様に対しては訪問時に話が聞けるようにし、困っている事、要望等を聞きケアに取り入れた。入浴用のチェア、タオル、バケツなどの備品を寄贈して頂いた。	入居者には日々のかかわりの中で聞き取りしており、外を見ながら花を愛で、「見に外に出たい」等に随時対応している。家族の訪問時に意見や要望を聞き取りしており、在宅での困難な状況での入居に感謝の言葉が多く、職員のモチベーションに繋げている。運営推進会議や行事への参加を呼び掛けているが、参加される家族が固定してきたとのこと、意見や要望はあまり出されていない。	意見箱を設置されているが、利用も無く、苦情も上がってはいない。家族の訪問時に日常生活が開示されている。今後も、情報を積極的に出し、訪問時に家族の要望を引き出して頂きたい。家族の忌憚りの無い意見や要望が、更にホーム運営に生かされるものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、月一回のホームミーティング週一回の理事長を交え、ケアで疑問に感じる事や提案を聞くようにしている。節電、休憩の取り方等意見が反映出来た。	施設長や管理者とは、気軽に何でも話せる信頼関係が築かれている。職員の意見や提案を出せる機会も多く、個々の気づきをミーティングの中で話し合い、節電や休憩時間の取り方を検討したり、食が細くなる入居者への支援方法等理事長を交えて話し合っている。また、委員会活動も充実し、職員個々がゆとりを持ってケアに取り組み、連絡ノートを通じて委員会活動の情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度より社内研修を行い勤務時間以外の職員は出来るだけ参加するようにしている。勤務については申し出があった場合は考慮し休日も希望通り取得してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年目、二年目の職員は優先的に研修に参加できるように考慮している。また業務中、疑問点、未熟な点があったら質問したり、指導を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会への参加を職員にはなるべく参加してもらい、他事業所との交流を持ってもらっている。部会の忘年会にも参加し親睦を深めた。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問時や担当者会議で現在実施しているサービス内容の状況を説明し不安な事、要望、これからの予測等一緒に考え希望に沿うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問の都度、管理者、担当者が現状報告し、ご家族様への思い、要望等傾聴しケアにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリングを十分に行い家族の要望にも耳を傾け支援を行っている。週二回はPT、STが来所し、機能訓練も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ等の家事をしていただいているが、特定の人ばかりになってしまっているため、他の方にも出来ることを一緒に見つけていけないといけないと思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の訪問時には管理者や担当スタッフが近況状況を説明し、状態変化時は速やかに連絡を取り報告をしている。また、月に一回程度宿泊されるご家族様がおられ、これからも続け、増やしていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日帰り帰宅を行った。面会に来られたら居室に椅子を用意しゆっくり過ごしていただいている。以前いかれていた(ゆめタウン、鶴屋、神社)等にドライブを兼ねながら買い物外出を行った。	家族との関係が途切れないよう、「時には自宅に帰って見られるように」と、ホーム側が提案し、入居以来初めての帰省を叶え、正月には家族が数泊されたケースもある。初詣に家族同行での三社詣り、いつも買い物に出かけていた百貨店や夫婦での外出は難しいと判断し、ホーム側が支援する等家族の協力を得ながら馴染みの関係性を継続させている。また、節分の恵方巻等慣習も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて席替えを行い、孤立されないよう気をつけている。コミュニケーションが難しい方は職員が間に入り関わりを持っている。台拭き、他入居者の下膳等かわりを持って頂き時には見守りをして頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば必要に応じて相談支援を行っていききたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛け、訴え時に本人の意向を確認しながら、生活のケアを行っているが本人の希望、思い通りに行っているのか等感じる場面もあり、また把握しきれていないと思う時もある。	家族にからの聞き取り(どんな生活をさせていたか、昔の思いはどうであったか等)や、レクリエーションにより発語を増やす努力をしている。意思疎通・発語困難や認知症状の進行も見られる中で、普段の生活の中での気づき、時には独語の中から発せられることを把握し、ケアサービスに反映させようと努力している。	入居者が何をしたいか、どうしてほしいかを推察し、プランに反映させたいとしている。今後も、入居者の何気ない言葉や入居者同士の会話等から聞こえてくる思い等を記録に残すことで、判断材料の一つにされることを検討いただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方に話を聞いたり、本人に昔の頃の話の話を聞いたりしている。馴染みの品物等あれば持ってきて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、心身の状態を観察し記録している。生活のリズムを作り規則正しい生活ができるよう心がけています。PTによりリハビリを居室やフロアで行い、職員も参加し心身機能の回復維持につなげています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回のミーティング時や毎日の申し送り時に職員同士で気づきや、ケアのあり方等意見を出し合っている。週一回のケアミーティングでは医師、OTの立場からアドバイスを頂き、介護計画書に取り入れている。	入居者の短期目標が合致しているか、見直す必要があるか、週毎の報告書を作成し、日々の取り組みを精査しながら、日常生活の維持に努めている。「元気で、今の状態を継続してほしい」とする家族の思いを実現するため、体調変化の早期発見にむけたプラン等が作成されている。定期的には半年毎、状態変化や入退院後アセスメントから取り直し、介護認定更新に合わ再作成しており、現状に即したプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りノート、又は口頭で伝え共有できるようにはしているが、伝えきれていないこともある。情報が共有できるよう工夫していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	八代事業所で合同レクリエーションを開催したり、見守りを一緒に行っている。他利用者との交流や顔なじみの方への説明も行っている。デイサービスの方との交流もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方と草むしりをしたり、畑での芋ほり、大根ほり等を行っている。保育園児も参加し笑顔が見られた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニックへの定期受診を行っている。必要に応じて、眼科等の受診をしていただいたり、胸写、エコー検査も行っている。緊急時も連絡網、マニュアルも作成し、対応できるようにしている。	現在は全員が母体医療機関をかかりつけ医とし、定期的な訪問診療体制としている。また、希望される方には訪問歯科や眼科等は、家族が受診に同行されている。職員は日々のバイタルチェックやクリニックで行う2ヶ月毎の体重測定(必要な方はその都度)等による入居者の健康管理や、主治医と連携しながら必要な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の体調の報告を行い、何か異常があればクリニックの看護師に報告し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院連携シートを渡しホームでの状況を伝えている。面会し、モニタリング、カンファレンスを行い、状態を確認し、退院後の対応、注意事項等指導して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては主治医より家族にターミナルケアと緊急時の対応について説明をして頂いている。ケアミーティングでも話をしていたが、運営推進会議で事例を発表しチームで支援をしていきたい。	入居時にホームの方針を伝え、その時点での思いを確認し、その後は食が細くなるなど変化していく状態に応じ主治医と話し合い、意向を再確認している。入居者及び家族の殆どがホームでの看取りを希望されているが、病気や苦痛が伴う場合は医療機関での対応を望まれている。職員は出来る支援に日々努めているが、夜勤帯の不安も出ている。	職員の不安である夜勤帯の勤務や、高齢の入居者の何時、何が起こってもどう不安を少しでも和らげることが必須である。今後、メンタル面や看護・介護両面からの研修会により、職員の不安軽減とされることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に職場にて、急変時の対応等の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策委員があり、災害の時の対応等を話し合い職員に伝えている。水、食料の備蓄も三日分ある。一月の大雪の際には交通手段を確保し、休んだり、遅れる職員もなかった。避難場所としての活用も考えている。	防災対策委員会を中心とした訓練の開催や安全管理が行われている。避難訓練の他、職員緊急連絡訓練の実施や、居室の安全チェックにも意識を持って取り組んでいる。河川敷で行われた市の消防訓練見学は、防災への意識を深める機会にも繋がっている。災害備蓄としては、水や食料を3日分ホームで確保しており、職員へも周知されている。この冬の大雪では、交通手段の確保など事前対策により、職員の勤務体制にも影響なく、通常の入居者支援が行われている。	昨今の自然災害は予想不可能である。今後も、火災・自然災害総合的に机上を含めた訓練が望まれる。また、訓練の際は地域や運営推進会議のメンバーの協力を呼びかけるなど、今後の取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い等にまだ忙しい時や訴えが頻回な時など徹底出来ていないところがある。グループホーム部会や法人等の接遇の研修に参加し基本を身に着け実践していくよう指導している。	接遇委員会による自己評価チェックシートを活用し、入居者への尊厳や失礼の無い対応について振り返っている。呼称は苗字にさん付けとしているが、場面によっては安心される下の名前でも対応している。排泄や入浴等基本的に同性介助とし、失禁時等、周囲に十分配慮しながら誘導している。個人情報について、家族の承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人に決定していただくよう心がけているがまだ職員が勝手に決めている事が多い。10時のおやつ選び等簡単なことから取り組んでいけたらと思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によって声掛けをし希望を聞いたり、外出に誘ったりしている。表現が出来ない入居者様には心地よく過ごせるようリクライニングチェアや足のマッサージを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪は行っている。季節に応じた衣服選びのみで、外出時などの時以外はおしゃれは出来ていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で穫れたじゃがいも、さつまいも、大根を調理に使って頂き、利用者と職員も一緒になって食べた。ホットドッグ作り、さつまいもを使用したきなこだごも作り誕生会は手作りケーキでお祝いした。下膳、お盆拭きも一緒に実施している。	主食のご飯はホームで炊いているが、副食は隣接施設で調理している。入居者が日々の調理に関する機会は殆どないが、畑の野菜管理や切干大根、漬物、おやつ作り(ホームや隣接施設と合同の調理教室)を楽しんでいる。家族にも案内している誕生会では、その季節のフルーツなどを使用した手作りケーキは特にアイデアにとんでおり好評である。また、行事食はホームで調理しており、正月のおせちは二日にわたって提供され、お屠蘇に松を飾るなど細やかな取り組みが記録写真からも確認された。介助者も多くなっているが、職員も同じ物を一緒に摂っている。	普段は主食のみホームで調理しており、ご飯に好みや季節の食材を加えるなど、今後も職員のひと工夫に期待したい。また、エプロンの使用方法や届けられた料理であり冷めてしまうこともあり、温かく提供できるな取り組みを検討いただきたい。また、入居者にとってお茶も一つの楽しみとなるよう、節目の日や行事食などには特に美味しいお茶の提供に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなかなか飲もうとされない方には、補水ゼリーや甘い飲み物を提供し、ムセや咀嚼が困難な方にはミキサー食で対応している。献立は管理栄養士が作成している。水分量を記録し摂取量を観察し定期的に体重測定も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ホームではなかなか口腔ケアが難しい方は週に一回訪問歯科の利用を行っている。歯ブラシを使用して介助を行い、義歯の方は夕食後は外して洗浄している。就寝前は全員口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安定した座位保持が出来る方は、定時誘導を行っている。おむつ利用の方は定時に交換を行い表情を見て声掛けを行い不快感を持って頂かないようにしている。日中、入浴前など誘導を行い出来るだけトイレでの排泄を促している。	座位が安定されている方には、定時誘導を行っている。日中はトイレでの排泄支援に努めており、特に入浴前は誘導を行っている。夜間はリスクを伴うことからテープ式オムツ使用が多くなっている現状であるが、尿量で使い分けも検討しながら取り組んでいる。排泄用品は、状況に応じて用品も異なることから、ホームでの準備を家族から依頼されている。	トイレ内は臭気なども無いが、衛生面から使用後は扉を閉めることを徹底されることが必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品等を提供し、運動や腹部マッサージを行っている。服薬後も状態の変化を観察し必要に応じ看護師やドクターに相談し排便コントロールを図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用した。スロープ用の浴槽を使用し車椅子の方でもゆったりと入浴して頂いている。拒否がある方に対しては、気分、タイミングを見図り穏やかな時に入浴をしていただき無理な誘導はしないようにしている。	車椅子利用者にもスロープ用浴槽を使用しながら安全な入浴を支援している。寛げる時間となるよう拒否の方へも無理強いすることなく、タイミングを見計らい、穏やかな表情になられた時に誘導し、柚や特産の晩白柚風呂等季節を楽しんでいる。広い脱衣所・浴室であり、季節に応じた室温管理や広さから不安になられないよう誘導にも配慮している。	地元の特産品、晩白柚を使った入浴など工夫された支援が確認された。今後は、浴室内の洗剤の置き場所なども配慮しながら、入居者の楽しい入浴時間を提供いただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時々状況に応じてリクライニングソファやたたみコーナー、居室にて休んでいただき、長時間座位の状態にならないよう心がけている。日光浴を行い、心地よい表情も見られた。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルを作り職員間で共有している。薬の変更時は申し送りを徹底し、疑問点は薬剤師に聞き、効果、副作用を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	納涼祭等のイベント時にはノンアルコールや子供用シャンパンで祝杯をあげた。正月はおせち料理、お屠蘇を職員と一緒に食べたり飲んだりした。おやつ時はコーヒー、カフェオレ、紅茶の提供も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	面会に来られた家族も一緒にドライブや買い物等に参加されている。港にクルーズ船を見に行ったり妙見宮等へ行きお祭りの気分を味わって頂いた。コンビニには散歩がてら利用している。いつも特定の人になっているので、体調を考慮し他の方の外出支援も増やしたい。	リビングの窓が大きく外を眺めながら「花がきれいなね～！外に行きたかな～！」と、話される方もあり、敷地内や近隣への散歩に出かけている。また、法人のワゴン車を使用し、季節の花見学(桜・つつじ・紫陽花など)や初詣三社参りには、家族も同行されている。地元遥拝神社では、入居者にとって馴染みの八代高田みかんの配布を喜ばれている。数名の方であったが地区の夏祭りへの参加や、八代花火大会を見物など日本ならではの季節の外出を楽しまれている。	地元の良さを再発見できる外出支援が行われている。特定の人になりがちな外出を、体調にも配慮しながら一人ひとりの外出支援に努めたいとしており、今後の取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は自由に品物を選んで買って頂いている。お金を自分で持って支払う能力のあるひとが少なく、職員が対応している。納涼祭では食券を使用して頂いた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける事が出来る方はおられないが、希望があれば職員が対応している。手紙は代読し内容を説明している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの窓が広い為常にカーテンを開け外が見えるようにし、季節感を味わえるようにしている。季節ごとの壁紙づくりを行い季節を認識して頂いている。掃除機やテレビのボリュームには気をつけ音が刺激にならないようにしている。	天井が高いリビングホールは圧迫感なく過ごせ、ファンを使用しながら快適な温度調整が行われている。段上がりの畳の間では、洗濯物をたたんだり、ちょっとした休憩がいつの間にかうたた寝をしてしまう寛ぎのスペースになっている。ホーム内には外出・イベント時の写真の他、入居者の共同作品などの掲示や職員が持ち寄った花が置かれている。昨秋には菊花鉢を届けられた家族が水やりにも来所され、長い期間季節を楽しめたようである。共用空間の掃除は職員が行っているが、窓拭きを一緒に手伝われる入居者もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーはゆっくりと出来る空間であり、冬には馴染みがあるこたつを配置しゆっくり落ち着けるようになった。またテレビ前ソファも増設し他者との交流スペースを増やした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	正月に宿泊された利用者家族もおられ自宅から簡易ベッドを持ってこられていた。クローゼットの衣替えはよく来訪されるので家族には相談し入れ替えて頂いた。面会が少ない利用者は職員が行い不足分を伝えたり、購入して頂いている。	入居の際に、愛用されていた物を持ち込んでもらうことで、これまでに近い環境となり安心される事を説明し、新しく購入する必要はないことを伝えている。就寝される前にベッドメイキングを支援する方、家族の面会時にゆっくりできる空間、物品がないことで安心される方、歩行状態に応じた居室環境に努めている。また、面会を楽しみに訪問される家族の中には、使い勝手の良い物品の配置などをご自身でされる方もおられる。	職員は、利便性だけでなく本人らしい居室環境に取り組んでいる。今後排泄用品の収納方法を検討し、家族とともに居心地よい居室となるよう支援いただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、全壁に手すりもあり安全は確保している。動線に障害物を置かないようにし安全面に気をつけている。		